

悪いところは ほっておいて 良いところを伸ばそう!? 部下や新人などの指導でそのように言われることがあります。さらに、叱るより褒めるほうが良いようにも言われます。また、若い人に多いようですが、少し強く注意などすると キレたり、すぐに辞めたりするとか。だから、相手の嫌なことになるべく触れないことが賢明だと考えた行動かもしれません。しかし、昔から「鉄は熱いうちに打て」と言われるように最初が肝心で、甘やかして 良くない習慣や癖、考え方が身についてしまうと、後で修正するのが大変です。だから、本当は悪いところは直すが、同時に良いところも伸ばすのが正解でしょう。

なぜ良いところを伸ばそうとするのか理由を考えてみると ①良いところを伸ばすほうが、悪いところを直すよりエネルギーが少なく済むから。悪いところの癖、無意識の行動、考え方などに目を向け意識して変えようと努力することは、体も心も疲れやすい。これに対し良いところでは肉体的疲労は同じでも精神的疲労は少なく感じる、回復も早い。②良いところを伸ばすことが出来ると自信につながる。そうなれば、モチベーションも上がり積極的になれる。次第に欠点も大きなマイナスとなくなり個性の一部として他人から見られるようになる。反対に、悪いところが直っても、やっと普通になっただけで自信にならない。また、直すのに手間取れば劣等感が増すことにもなる。③良いところを伸ばすほうが楽しいから。成功体験となり、より楽しいことを求めて言われなくても自主的に行動努力が出来るようになる。逆に悪いところを直す方は辛いものである。自己管理が出来ないで一人で取り組むと途中で止めるなど挫折しやすい。だから多くの場合他人の協力が必要となる。少数だが、マゾ的な人なら問題ないかもしれない。④良いところを伸ばす方が続けやすいから。伸ばすにも直すにも継続するほど効果が上がるもの。悪いところを直す方が些細な理由で止めやすい。だから、良いところを伸ばすのが主であるのが良い。以上のような理由から良いところを伸ばすのが良いと考えられるが、当然、悪いところを直す方が先のと看もある。次の場合が考えられる。①緊急性がある場合。人は頭で理解しても行動できない。府に落ちると言うか体で解るまで時間がかかるもの。急ぐときや危険が迫る場合など、規則で禁止したり強制的に排除したりする必要がある。②初心者や未経験者で、本人も他人も何が良いか悪いかの情報が分かっていない場合。取りあえず平均的な型にはめるのがやりやすい。③本人が間違っただ先入観、思い込み、勘違い、適切でないアドバイスなどに捕らわれそれが正しいと信じて行動している場合。客観的にみて適切なやり方に矯正する必要がある。④職務等における致命的な欠点がある場合。この場合はすぐに直すべきだ。直らないと最終的に辞めることになり、本人も指導する側も不幸になる。

指導者の立場から、本気で部下や新人が成長して欲しいと願い行動することが大切です。プロスポーツの監督やコーチが目先の勝負のために若い将来が期待される選手を無理させ潰してしまうことがある。逆に本人がより強くなりたくて限界を超えたトレーニングを行うが、監督やコーチは止めずに黙認し、結果故障を起こす場合もある。ビジネスは長期間の闘いである。だから、長く働ける優秀な人を育てる必要がある。会社や自分の手柄のために社員に心身の健康を害するほど無理をさせることは有ってはならない。一時的なバイトや専門職の外注を除いて使いやすい人を道具のように使うのは望ましくない。

人は信頼関係が深まれば厳しいことも聴けるものです。相手の性格や信頼関係の程度に応じ柔軟に成長するための支援を行って下さい。十人いれば十人それぞれにあった適切なやり方は違うものです。それを画一の方法でやろうとするのは指導者の手抜きだと言えます。